

## 初期ゼミの構想

井 上 雅 夫\*

(2002年3月20日受理)

Masao INOUE

### Schema of Introductory Seminar for Undergraduate Students

本論文では、筆者が担当した初期ゼミの構想理念を示すとともに、その内容の一端を披露した。ゼミ内容を振り返りながら、2年目のゼミに向けて、改善点をさぐった。

〔キーワード：大学教育，初期ゼミ，視聴覚資料〕

## はじめに

岩手大学教育学部では2000年度から初期ゼミを開講している。筆者は2年目となる2001年にゼミを開講することになった。本論文は、その経過報告、反省ならびに、次回へ向けての改善策を述べるのが目的である。

本学部では初期ゼミの方針がつぎのように示されている。

大学での勉強を始めるにあたって、大学で学ぶことの意味や、大学での学び方とはどんなものなのかを考え、知ることは大切である。初期ゼミでは、新入生のためのオリエンテーションを行うとともに、あるテーマについての発表・討論などを通して勉学への動機づけをすることを主な目的としている。また、日本語の表現力を向上させる機会ともなっていると考えている。

新入生の皆さんにとって、この初期ゼミが、「岩手大学で、しかも、教育学部で、何をどのように学ぼうとするのか」を自覚する重要なワンステップとなることを期待する。

## 1 ゼミの構想理念

さきに引用した初期ゼミの趣旨にそうものであるかどうか不安を感じつつも、筆者は、「知ること、わかることの楽しさを体験させたい」と考えた。そのための一つの手段として視聴覚資料を取り上げた。

---

\*岩手大学教育学部

ゼミを構築するに当たって、受講生が学校教員養成課程の学生に限らないことに対する姿勢を決めた。筆者の専門分野は理科教育であるが、受講生の興味・関心が奈辺にあらうとも対応することを基本的姿勢とした。すなわち、理科教育分野のゼミとして構想するのではないということである。

不安が一つあった。ゼミの志望者がどのくらいいるかということである。そのためには、参加することに抵抗感を持たないような「ゼミの概要」を示さなければならない。筆者の「ゼミの概要」を以下に示す。

受入人数 8名

ゼミの概要 本ゼミナールの目的は「視聴覚資料の学習効果を実感することである。適切な視聴覚資料の提示が学習効果を上げることは言うまでもない。ゼミナールの第一回目はオリエンテーションとして担当者の方から例を示す。第二回目以降は毎回一人の受講者が視聴覚資料を併用しながら他のメンバーに話題の説明をするかたちで、ゼミナールを進めて行く。話題の内容は発表者にまかせる。理系・文系を問わないし、教科書の内容、時事問題等なんでもかまわない。ここで言う視聴覚資料は、書籍・雑誌・新聞、写真・絵画、放送番組、掲示物（既成品・手づくり）等、幅広くとらえておきたい。

上記の概要に応じて受講してくれたのはつぎの5名である。ちなみに、各人が、筆者のゼミを志望の何番目に置いたかということと、小学校コースの3名が2年次になって所属することになったサブコース（このサブコースで卒業論文を書く）を記しておく。

		志望順位	進んだサブコース
A子（学校教育課程	小学校コース）	第4位	社会サブコース
B子（学校教育課程	小学校コース）	第1位	社会サブコース
C子（学校教育課程	小学校コース）	第4位	教育実践学サブコース
D子（学校教育課程	中学校コース 美術）	第3位	
E子（芸術文化課程	造形）	第3位	

筆者の予想では、学生たちは、文章だけではわかりにくいと感じた経験をこれまで何度もしているであろう。したがって、取り上げきれないほど多数の題材が受講生から提供されることを期待していた。しかし、思惑ははずれた。筆者がゼミ運営の主役を勤め続けなければならなかったのである。

## 2 ゼミの内容

ゼミの回数はつぎの13回である。

第1回 4月19日	第6回 5月31日	第11回 7月5日
第2回 4月26日	第7回 6月7日	第12回 7月12日
第3回 5月10日	第8回 6月14日	第13回 7月19日
第4回 5月17日	第9回 6月21日	
第5回 5月24日	第10回 6月28日	

ゼミは、各回（ゼミの時間は1時間30分）が読み切りになるように構成した。毎回、ゼミの流れを示すプリントを用意し、そこには、準備した視聴覚資料の一覧を載せておいた。したがって、受講生がゼミについて行けずに取り残されることはなかったと思う。

### 第1回

オリエンテーションの日である。本ゼミのめざすことを伝えるため、例を示した。はじめて顔合わせをする日なので、受講生の興味・関心がどの分野にあるかは不明である。そこで筆者の一方的な題材選びとなったが、視聴覚両方を用いた資料が使える題材として音楽分野の題材を用意した。文部省で出している学校音楽の『指導資料』<sup>1)</sup>にも「視聴覚機器の活用と工夫」という項目があるが、筆者が話題としたのは、「オーケストラに指揮者は必要か」ということである。このような問いに答えるための検討材料として視聴覚資料がいかに有効かを示したかったのである。

準備した視聴覚資料はつぎのようである。

- ①音楽ドキュメンタリー「26人の指揮者たち、オルフェウス室内管弦楽団」（1996年8月30日、NHK衛星第2）
- ②水戸室内管弦楽団演奏会「メンデルスゾーン、交響曲『イタリア』」（2000年7月27日、NHK衛星第2）
- ③ウイーンフィル（ムーティ指揮）「メンデルスゾーン、交響曲『イタリア』」（1992年4月23日、NHK衛星第2）

資料①は、指揮者を置かないオルフェウス管弦楽団についてのドキュメンタリー番組である。そのなかで楽団員の一人が、「指揮者を置かない理由」や「指揮者がいなくても大丈夫である」ことをインタビューで述べている。

もしそれに対して、「26人くらいだからできるのもっと人数が多ければ無理さ」、という意見があるとすれば、資料②が反論資料として使える。その際提示の順番も研究材料となる。筆者なら、リッカルド・ムーティ指揮のウイーンフィルの演奏を提示してから、無指揮者の水戸室内管弦楽団の演奏提示へ進む。すなわち、ウイーンフィルのように多人数のオーケストラで交響曲を演奏する映像を観て「やっぱり指揮者が必要じゃない」という安心した気持ちにさせておいてから、その気持ちを崩してみたいと思う。

ゼミ時間の最後に次回の題材選びについて話し合った。前述の「ゼミの概要」に記したように題材はなんでもよいというためには、予めかなりの量の資料（印刷物資料や視聴覚資料）が蓄積されていなければならない。そこで、資料の一端として1万5千本を越す筆者所有のビデオ目録を示した。その結果、受講生の興味に向けられたのは、下に示す宝塚歌劇の「ベルサイユのばら」、フィンガー5に関するビデオであった。とりあえず今後の1、2回は選んだビデオを基にゼミを構想することにしたが、単なるミーハーにすぎないゼミ内容にしないためにどうすればよいかという課題が、筆者につきつけられてしまった。その課題に対する答えを、第2回、第3回の内容として示したい。

- ① 宝塚歌劇「ベルサイユのばら・アンドレとオスカル編」（1997年10月21日、NHK衛星第2）
- ② 驚きモモの木20世紀「フィンガー5」（1998年4月24日、岩手朝日テレビ）

第2回

宝塚歌劇の「ベルサイユのばら」を観劇することにしたが、1時間30分のゼミ時間内で全舞台を観るわけにはゆかない。それだけに観劇するにしても、なんらかの意味のある観劇をしたかった。

トップスターはどのようなきっかけでその世界に入ったのか？下の資料①で、鳳蘭の入団の決め方を紹介した。彼女の場合「タカラヅカの舞台を見て決めたのではない」ということである。それに対し、NHKテレビで放映された舞台を見て、「自分の進むべき道は宝塚である」と決めた少女がいた。杜けあきである。観劇する意味を持った舞台が見つかった。杜けあきがテレビ放送で観た舞台が資料②の榛名由梨と安奈淳の舞台である。

① タカラジェンヌスターグラフィティ② (1992年11月25日, NHK衛星第2)

② 宝塚歌劇「ベルサイユのばら・アンドレとオスカル編 (昭和50年・花組公演)」(1997年10月21日, NHK衛星第2)

ゼミの内容をミーハーで終わらせないため、もう一つ工夫をしてみた。

よく言われるように、教員は授業を見せたがらない。それに対し、芸能人は、見てもらうことが目的だから見せたがる。「教師になりたがる者と芸人になりたがる者の違いはなにか。教育面で違いがあるのか。」筆者には関心がある。そこで、宝塚音楽学校を紹介した資料③を視聴した。ここには、杜けあきが登場する。

③NHKスペシャル「夢の城・タカラヅカ青春物語」(1994年3月2日, NHK総合)

第3回

この回については、受講生に渡したメモをそのまま収録しよう。メモだけであらすじはわかると思うが、資料①と②の内容の抜き書きに示したように、フィンガー5を題材にして、時代を知ることの大切さを伝えようと試みた。

~~~~~  
初期ゼミ (2001年5月10日) のメモ

ビデオ① 驚きモモの木 20世紀「フィンガー5」(1998年4月24日, 岩手朝日テレビ)

1968年 沖縄から東京へ

1972年5月 沖縄返還

1973年 「個人授業」大ヒット 「恋のダイヤル」, 「学園天国」

1975年 渡米

1978年 芸能界引退

そのころはどのような時代だったか？

昭和35年ころの『中学校社会科地図帳』では沖縄と鹿児島県の境界を地方界で表現

1972年のNHK紅白初出場者

天地真理「ひとりじゃないの」

朱里エイコ「北国行きで」

石橋正次「夜明けの停車場」

青い三角定規「太陽がくれた季節」

野口五郎「めぐり逢う青春」

ビリー・バンバン「さよならをするために」

沢田研二「許されない愛」 欧陽菲菲「恋の追跡（ラヴ・チョイス）」  
 上條恒彦「出発（たびだち）の歌—失われた時を求めて—」  
 平田隆夫とセルスターズ「ハチのムサシは死んだのさ」

#### 1973年のNHK紅白初出場者

森 昌子「せんせい」 八代亜紀「なみだ恋」  
 三善英史「円山，花街，母の町」 アグネス・チャン「ひなげしの花」  
 郷ひろみ「男の子，女の子」

#### 1974年のNHK紅白初出場者

西城秀樹「傷だらけのローラ」 山口百恵「ひと夏の経験」  
 中条さよし「うそ」 桜田淳子「黄色いリボン」  
 殿さまキングス「女のみさお」 海援隊「母に捧げるバラード」  
 渡 哲也「くちなしの花」

#### ビデオ② ニュースハイライト「1972年」（1972年12月，NHK総合）

新年を海外で過ごす人たち

- 1月 横井庄一 グアム島で発見
- 2月 連合赤軍 浅間山荘事件
- 4月 米軍北爆再開
- 5月15日 沖縄返還
- 7月 田中首相登場
- 9月 日中国交回復
- 10月 パンダ来日（ここまで25分くらい）

### 第4回

前時の最後に、「そろそろあなたがたをゼミの主役にしたいけれど、なにに興味がありますか」というふうに持ちかけてみた。その結果出て来た答えの一つが「日本史に興味がある。なかでも戦国時代，たとえば謙信と信玄，川中島の戦」であった。それを受けて，次回は「それを題材にしてみたい。あなたがたもなにか提示資料を考えてきてほしい。」と話しておいたが，受講生の準備状況ははかばかしくなく，結局，筆者主導でゼミを進めることになった。この回も受講生に渡したメモを示そう。

#### 初期ゼミ（2001年5月17日）のメモ

戦国時代「信玄と謙信」を例にとって

- 今回の目標 ①わかりやすくするには→たとえば視聴覚資料を用いる  
 ②興味を持たせるには→たとえばストーリー性を持たせる

昔（戦前）の子どもと現在の子どもとでは、見方は違うのか？

1 開智学校（長野県松本市）での試験例

高等1学年大試験問題・歴史

「河中島戦争ノ源因及結果ヲ述ベヨ」（『史料開智学校 第18巻 授業の実態8』, 124頁）

2 『尋常小学国史絵図 上巻』, 学習社, 昭和16年

→地図, 写真, 年表

→現在の『日本史歴史地図』と比較してみるとよい。

3 唱歌「川中島」

→歌「元寇」, 歌「勇敢なる水兵」（日清戦争黄海海戦）, 歌「四条畷」（南北朝時代）, 歌「青葉茂れる桜井の」（南北朝時代, 楠正成と正行父子の別れ）, 歌「大江山」（源頼光の鬼退治）, 歌「青葉の笛」（源平合戦、一ノ谷）, 歌「水師營の会見」（日露戦争, 乃木将軍とステッセル将軍）, 歌「鎌倉」, 歌「那須与一」（源平合戦）, 歌「広瀬中佐」（日露戦争）, 歌「橘中佐」（日露戦争）, 歌「児島高德」（南北朝時代）等, 歴史に基づいた多くの歌が歌われた。すなわち歌詞で歴史が頭に入ってきた。

4 教科書の比較

戦国時代の記述内容

目標達成のためのヒントを探す方法

1 学研まんが『日本の歴史 8 天下の統一（安土・桃山時代）』

類似の「まんが」による日本史は、小学館・集英社等からも出ている。

2 邦光史郎『楽しみながら歴史に強くなる本 日本史面白事典』, 主婦と生活社, 昭和54年, 79頁, 「問 戦国武将は、いざそのときに何歳だった？」

→ヒント 年表作成（人物）

どのような人物を取り上げるか？

「戦国時代人物名鑑」（インターネット利用）

|                |                |                |
|----------------|----------------|----------------|
| 今川義元 1519-1560 | 上杉謙信 1531-1578 | 織田信長 1534-1582 |
| 加藤清正 1562-1611 | 武田信玄 1521-1573 | 伊達政宗 1567-1636 |
| 徳川家康 1542-1616 | 豊臣秀吉 1537-1598 | 北条早雲 1432-1519 |

3 地図や写真を用いる

川中島の俯瞰図 『日本の歴史 別巻2 図録 鎌倉から戦国』, 中央公論社

川中島合戦地図 新田次郎『武田信玄（二）』, 文春文庫

4 文学（時代小説）を読むのもよい

(1) 井上 靖『風林火山』

(2) 新田次郎『武田信玄』

5 映画を見るのもよい

(1) 映画「風林火山」（1969年, 東宝）稲垣浩監督

山本勘助（三船敏郎） 武田晴信（萬屋錦之助） 由布姫（佐久間良子）

上杉謙信（石原裕次郎）

(2) 映画「影武者」（1980年, 東宝）

~~~~~

## 第5回

受講生から、算数での公式の取り扱い（例 台形の面積）や分数の割り算について考えてみたいという声が出た。しかし、本人には提示すべき資料は見つからないということで、「筆者だったらこのような資料を提示できる」ということで、準備したのがつぎの資料である。

### 1 公式の取り扱いについて

#### ①小学校算数のドリル 数種類

#### ②〔形と面積〕, 国民学校教科書『初等科算数 四』, 昭和17年, 53頁

#### ③〔公式〕, 国民学校教科書『初等科算数 六』, 昭和17年, 41-43頁

資料①②③で戦前の教科書と現在の算数の比較を行おうとした。

#### ④おかあさんの勉強室「算数これで好きになる③ばらしてくっつけおもしろ面積学習」(1987年4月15日, NHK教育)

内容は、現職教員による母親たちへの解説である。

### 2 分数の割り算について

#### ①映画「おもひでポロポロ」(1992年10月9日放送)

アニメ映画であるが、ヒロインが「小学生のころ、分数の割り算が苦手だった」と回想する場面がある。

#### ②おかあさんの勉強室「算数これで好きになる②折り紙で分数自由自在」(1987年4月14日, NHK教育)

つぎに示す資料③～⑧は、教授方法についてさまざまな工夫がなされていることを示すために準備した文献例である。

#### ③遠山啓(編)『算数に強くなる水道方式入門 下巻 小数・分数の計算』, 国土社, 1961年

#### ④尾形邦子「〈分数除法〉とのめぐりあい」, 『仮説実験授業研究 第5集』, 仮説社, 1975年, 97-109頁

#### ⑤新居信正「授業書〈分数の乗除 第1部 分数の乗法〉とその解説」, 『科学教育研究』, No.2 '70, 国土社, 1970年, 143-176頁

#### ⑥新居信正「授業書〈分数の乗除 第2部 分数の除法〉とその解説」, 『科学教育研究』, No.3 '71, 国土社, 1971年, 149-174頁

#### ⑦新居信正「授業書〈分数の除法〉改訂版」, 『仮説実験授業研究 第5集』, 仮説社, 1975年, 110-136頁

#### ⑧小学校算数指導資料『数と計算の指導』, 文部省, 昭和61年, 324-328頁

本書の第7章は「小数・分数の乗法と除法」であり, 7・6「小数・分数の乗法と除法」の指導事例の項に, 「7・6・4 分数のわり算の意味 - 6年 -」の見出しがある。

## 第6回

理科でわかりにくかったことがなにかないか, と受講生に問うた。その結果出た「慣性」を題材に取り上げた。

まず, わからなくてもふしぎではないという安心を与えることからはじめた。「慣性などというものの考え方はとてもむずかしいのです。」「『力がないのに動き続ける』という考え方がむずかしいのです。」(板倉聖宣『科学と仮説 仮説実験授業への道』, 季節社, 1971年, 141頁)。

つぎの表現もむずかしいと言われそうである。専門的には正しいかもしれないが, 受講生の知識レ

ベルでは理解できないであろう固い表現の提示である。

慣性の法則（運動の第1法則）

釣り合いを破る外力が作用しない限り，物体は静止した状態あるいは等速直線運動の状態を持続する。  
（シッフマン『物理学』，学術図書，1984年，37頁）

しかし，このむずかしそうな「慣性」を中学校第3学年で学習する。

①中学校理科の教科書，資料集，問題集を数種類準備

「義務教育段階で学習する以上あなたがたにも理解が求められる」ということで，理解するためには上級学年の教科書で学ぶのも一法であることを示そうとして，高校「理科Ⅰ」の教科書数例の記述を抜き書きし，図も示した（②～⑨）。「理科Ⅰ」は，昭和53年告示の高等学校学習指導要領で，必修科目として登場したが，平成に入ってから学習指導要領では姿を消した科目である。

- ②大原出版『理科Ⅰ』「外から力がはたらかないとき，運動している物体は同じ速度で同一直線上の運動を続ける。また，静止している物体はそのまま静止を続ける。」
- ③啓林館『理科Ⅰ』「物体に力が働かなければ，静止している物体はいつまでも静止し，運動している物体はいつまでも等速直線運動を続ける。」
- ④実教出版『高校理科Ⅰ』「いっぽんに，物体にはかから力がはたらかなければ，はじめに静止していた物体は，静止したままであり，はじめに等速直線運動をしていた物体は，そのまま運動を続ける。」
- ⑤教育出版『理科Ⅰ』「物体にはたらく力がつりあっているとき，物体はその初めの運動状態を維持する。」
- ⑥開隆堂『理科Ⅰ』「物体に力を加えないかぎり，静止している物体はいつまでも静止しつづけ，動いている物体はいつまでも等速直線運動をつづける。」
- ⑦数研出版『新編理科Ⅰ』「外部から力がはたらかないか，あるいはいくつかの力がはたらいてもそれらがつりあっていれば，静止している物体はいつまでも静止をつづけ，運動している物体はいつまでも等速直線運動をつづける。」
- ⑧第一学習社『新理科Ⅰ』「物体に外から力が作用しないときには，静止している物体はいつまでも静止を続け，運動している物体は等速度運動を続ける。」
- ⑨第一学習社『総合理科Ⅰ』「一般に，物体に外から力が作用しないときや，いくつかの力が作用しても，それらがつりあっているときには，静止している物体は静止の状態を続け，運動している物体は等速直線運動を続ける。」

つぎにテレビ映像での表現を視聴した。

⑩高校理科Ⅰ「慣性」（1988年10月13日，NHK教育）

⑪やってみようなんでも実験「慣性ためせば歓声あがる」（1997年10月27日，NHK教育）

⑫理科ジャンプ「運動と速さ・重いものは動きにくい」（1991年11月11日，NHK教育）



## 第8回

ゼミのなかで「サトイモってどのようにできるのだろう」という話題が出た。それをきっかけとして、イモ類を数回のゼミの題材とすることにした。第1回はサトイモである。

①さくもつものがたり「サトイモ」,「こどもの光 1984年11月号」,家の光協会, 72-77頁

ここでははじめの部分のみを引用するが(第1図),「さくもつものがたり」は図版と文とで構成されている。この構成は視聴覚資料の有効性を実感させる検討材料として格好の材料となった。ゼミではつぎのような利用方法をとった。下段の文のみをまず配布し、その後に図版も付いたオリジナルのコピーを配布した。図版の効果は図版内容の適不適も関わってくるので、図表現のでき具合についても意見を交換した。

以下に、文のみを全文引用しておく。



第1図

えんぎのいいサトイモ

ピー ピー ヒヤララ ピー ヒヤララ

秋祭りをむかえるふえの音が、イネをかりおえた田の上をわたってくる。家の中では、お母さんが、祭りのごちそうづくりに、あせ、だくだく。

「大発見! 大発見!」

台所に顔を出したゴローくん、いつもとちがって、すごくまじめな顔でお母さんの料理する手もとをにらんでいる。

「えっ、どうしたの、ゴロー。」

お母さんも、びっくりだ。

「ねえ、母ちゃん、おせち料理をはじめ、お祭りとか、めでたい日のごちそうというと、どうしてサト

イモが使われるんだらう？」

「鋭い！ゴローはいい観察力をしてるわね。あのね、サトイモは親イモのほかに子イモがたくさんできるでしょ。子イモだけでなく孫イモも、ひ孫イモもできる。そんなわけで、むかしから子孫が栄える、おめでたいさくもつとされてきたのよ。だから、おめでたい日には、サトイモを使った料理を作るのよ。」

「ふうん、えんぎがいいんだね。」

「そうよ。それから、親イモのことをイモ頭っていうんだけど、“イモ頭でも頭は頭” って、ことわざがあるの。頭ってのは人の上に立つ——つまり、えらい人って意味ね。これもめでたいことにつながるわけ。」

「なるほど、おもしろいなあ。」

「だからゴローも、サトイモを食べて、りっぱな人になってね。」

長いなが〜いつきあい

サトイモが、祝い事や喜びの日に用いられるのは、なにも、えんぎかつぎや、ことば遊びのせいだけではないんだ。日本人の先祖につながる、長いなが〜いサトイモとのつきあいがあるんだ。

16世紀にジャガイモやサツマイモが伝わってくるまで、日本でイモといったら、ヤマノイモとサトイモのことだった。

ヤマノイモは、自然薯（じねんじょ）ともいうように、山地に自生するイモで、サツマイモと同じように根の一部が大きくふくらんだもの。日本に米づくりがはいる前から、たいせつな食べ物だった。

このヤマノイモにたいして、家のまわりや、村の畑で作るイモが里のイモ——つまりサトイモ。サトイモはジャガイモと同じように、くきの一部が大きくふくらんだものだ。

サトイモの原産地は、東南アジア、あるいはスリランカ、インドなどの熱帯アジアといわれ、南太平洋の島々で、いまでも原地人の主食になっているタロイモの一種だ。

「太郎」といえば、むかしから日本人を代表する名前だね。このタローは、タロイモの「タロ」からきたのだというのはこじつけかもしれないけど、学者の間では、日本に 稲作文化が伝わる前に、タロイモ（サトイモ）とヤマノイモ、それにコンニャクを作る 人々の文化が広まっていたという考えがある。

サトイモと日本人のつきあいは、それほど古く、長いんだよ。

サトイモのなかま

米づくりが始まる前からの長いつきあいのためか、サトイモの品種は 200種以上にもなるといわれている。

もともと日本にはいつてきたサトイモには、水田のように水をかぶったところで育つものと、畑で育つものの2種類があった。これが長い年月の間に、各地に広まって、その土地土地にあったサトイモとなったかららしい。

たくさんのサトイモのなかまを、食べる部分で大きく分けると、子イモ用品種、親イモ用品種、親子兼用品種、それに葉柄を食べるズイキ用品種になる。

いま、わりあい多く作られているのは、子イモ用品種の『石川早生』。子イモのほかに、孫イモもたくさんとれ、形も整っている。子イモ用品種には、そのほかに『土だれ』、『はすばいも』などがある。

親イモ用品種は、近ごろでは姿を消してしまった感じ。そのかわり、親子兼用品種の『赤芽』がのびている。むかしからの『八つ頭』、『大吉』、『唐のいも』なども親子 兼用品種としてがんばっているよ。

ズイキ用品種としては『みがしき』、『はすいも』がすぐれている。生のものをゆがいてゴマあえや甘酢づけなどにして食べてもよし、乾燥してイモがらとして保存してもよい。

日本の大むかしからのイモ（ヤマノイモ，サトイモ）は新来のサツマイモやジャガイモより収量は少ないけど，需要は根強く，日本人には欠かせない野菜なんだよ。

②きょうの料理「ホカホカ里芋スタミナメニュー・福井・大野市」（1991年11月1日，NHK総合）

③食卓の王様「里芋」（1997年9月26日，NHK教育）

この2本の放送ビデオは，食べ方のみならず，里芋の栽培のようすも教えてくれた。

## 第9回

イモについての第2回は，ジャガイモである。

①さくもつものがたり「ジャガイモ」，「こどもの光 1983年4月号」，家の光協会，72-77頁

前回同様，図版と文で構成されたこの文献から，まず以下の文だけを取り出してプリント資料として配布した後，図版を含む全体を資料配布した。

ジャガタラからきたイモ

ジャガタライモ，ゴショイモ，ばれいしょ，男爵イモ……これ，なんのことかわかるかな？

そう，みんなジャガイモのことをいうんだね。どうして，こんな呼び名がついたのか調べてみよう。

ジャガイモの原産地は，日本から遠くはなれた南アメリカのアンデス山脈の中腹。あのインカ帝国が栄えたペルーのあたりなんだ。それがヨーロッパに伝わったのは16世紀の中ごろから17世紀の中ごろにかけてだ。

そして日本へは1598年にオランダ人の手によって，ジャワ（インドネシア）の港ジャガタラから長崎へもたらされた。ジャガタラからきたイモがなまってジャガイモとなったんだ。

“ゴショイモ”は漢字で書くと五升薯。北海道でこう呼ばれる。この呼び名はかつて北海道の函館に住んでいた外国人が，一株から五升ますいっばいのジャガイモを収かくしたことからつけられたとか。

“ばれいしょ”は馬鈴薯と書く。

江戸時代の植物学者，小野蘭山が中国の書物にあった「馬鈴薯」とかんちがいしてジャガイモの日本名としたのがおこりとか。ふしぎなことに政府の作物統計などは，今でも“ばれいしょ”を使っている。

ゆかいなのは“男爵イモ”。

明治40年に川田男爵がアイルランド産のアイリッシュコブラーという品種を持ち帰って植えたところ，たくさんとれてうまいことから人気を呼び，“男爵”の名が広まったんだ。

最強のピンチヒッター

アンデス山中の高冷地で生まれたジャガイモがヨーロッパにもたらされたはじめのころは，食りょうとしてよりは，めずらしい花がさくという観賞用としてだった。

フランスでは，うすむらさき色の花びらに，だいたい色のおしべが調和して美しいというので，マリー・アントワネット皇后が髪かざりに使ったことから，貴族や宮廷につかえる人たちがきそってジャガイモの花をかざりに用いたそうさ。

このめずらしい花をさかせるジャガイモを食りょうとして注目したのがプロシア（ドイツの北東部にあった王国）の皇帝フリードリッヒ大王。

なにせプロシアは，そのころ冷害と凶作がうちつづき，困りぬいていた。そこで大王は，「長年の冷害凶作であれはてたプロシアを救うのはジャガイモしかない。」と，農民にジャガイモの栽培を強制的に行かせ

た。ジャガイモ栽培をしない農民には銃剣をつきつけておどしたそうだ。そして軍隊ではジャガイモを常食とし、王室でもどしどしジャガイモを食べることにした。おかげでプロシアは立ちなおったし、ドイツ人は今でもジャガイモを常食にしている。

いっぽう、フランスでも1771年の大凶作のとき、ジャガイモが大いに役だち、ルイ16世は「フランスは貧民のためのパン（ジャガイモのこと）を発見した人に感謝する。」といったそうだ。ジャガイモは冷害凶作のときに強いピンチヒッターだったんだね。

### 食べ方いろいろ

世界でジャガイモがたくさんとれる国は、ソ連、ポーランド、アメリカ合衆国、中国、東ドイツ、インド、フランスなど。

ソ連やポーランド、東ドイツなど、東ヨーロッパの多産国では、ジャガイモは主食のようにして毎日の生活に欠かせない作物だ。

これらの国々では、皮つきのまま蒸すか、ゆでるかして熱いうちに皮をむきながらバターや塩をつけて食べる。

日本のジャガイモ収かく量の約70パーセントをしめる北海道の人も、

「ジャガイモのおいしい食べ方は、丸ごと塩ゆでして、何もつけずにそのまま食べるのがいちばん。」

といっている。

きみはお米がうまいのを知っているだろう。お米にはたくさんふくまれている炭水化物は、ジャガイモにもたくさんふくまれているんだ。日本にはお米という、すぐれた作物があったからジャガイモは主食にはなれなかったんだ。

イネは熱帯が原産地で冷害には弱いジャガイモは高冷地で寒さに強い。だから、日本でジャガイモ栽培がさかんになったのも1885（明治18）年の大凶作以後のこと。

ジャガイモといえば今では西洋料理の材料として、コロケ、マッシュポテト、フライドポテト、ポテトサラダなどに使われることが多いが、主食のように毎日食べるとしたら、味にあきのこない丸ごと塩ゆでのほうがいいかもしれないね。なに、ぼくはやっぱりポテトチップスがいいだって？

### ②屏亜・范良智「馬鈴薯漫遊世界」，「少年科学画報」，

1981年2月号，北京出版社，27頁

「少年科学画報」は、中国の児童向け月刊雑誌である。中国にジャガイモが伝播するまでの経緯を7コマの絵で表している。つぎに示すのは、絵に付いている文である。これも、文を配布してイメージを浮かべてから、絵付きのコピー（第2図）を配布した。

(1) 馬鈴薯は、土豆、洋芋、地蛋、山藥蛋とも言う。その故郷は、南米アンデス山地のペルー・チリ一帯である。かつて、この一帯の人々は、収穫期に馬鈴薯を豊収の神に捧げ、盛大な祭りをした。

(2) アンデス山地は太平洋沿岸にあり、高さ4, 5千メートルに達する高山であり、その気候は寒冷で、あまり多くの



第2図

収穫量は望めないで、インディアンは長く苦しい採集活動の中から、遂に馬鈴薯を栽培することを発見し、それに成功した。

- (3) 16世紀中頃南米にやって来た一人のスペイン人によってヨーロッパにもたらされた。当時は、美しい枝葉や花によつて高貴な装飾品とされた。フランスのルイ16世の王妃は馬鈴薯の緑色の実を用いて、自分の服のボタンや帽子を飾った。
- (4) ヨーロッパの人々が馬鈴薯は食べられるものだと知るまでには長い時間がかかった。フランスの農業学者パルマンティエは長期にわたる観察と実践から、馬鈴薯は食べられるだけでなくパンなどを作ることもできることを発見した。
- (5) パルマンティエは国王に、かれが馬鈴薯を植えた畑で耕してくるよう頼んだ。さらに、宮廷で開かれた宴会では馬鈴薯を用いた20種類を越すおいしい料理が出た。パルマンティエの影響でフランスの農民は馬鈴薯を大面積で栽培することを始めた。
- (6) 19世紀初ロシアのピョートル大帝はヨーロッパ旅行をした時、オランダで、当時「ガラシヨ（オランダいも）」と呼ばれていた美しい花を愛でて、大金で一袋の馬鈴薯を買い、帰国後皇宮の花園に植え、その後ようやく民間で栽培されるようになった。
- (7) 馬鈴薯は収穫高の王と称えられ、にんじんやナス同様ビタミンを豊富に含み、現在ではすでに人々の重要な食品となっている。ここ数百年来世界各地で栽培されているが、我が国（中国）ではわずか百年余りの歴史しかない。一説によれば、華僑が東南アジアから持ち込んだと言われる。主として我が国の東北、内モンゴル、華北、雲貴等気候が比較的寒冷な地域で栽培される。我が国の栽培面積は世界第2位である。

③トライ＆トライ「芋はイモでもジャガイモ＆サツマイモ」（1990年9月29日，NHK総合）

資料①②では、いずれも、アンデス原産のジャガイモが世界中に伝播していったことを紹介している。それをテレビ映像で提供してくれたのが、つぎの2本のビデオである。

④人間は何を食べてきたか「アンデスの贈りもの～ジャガイモ～」(1988年12月7日，NHK総合)

⑤新世界紀行「食べ物と人間!ジャガイモの旅」(1990年5月13日，岩手放送)

## 第10回

イモに関するゼミ第3回の題材はコンニャクである。ゼミのなかでつぎのような話題が出たのがきっかけとなった。

「コンニャクは芋ですって?」「栽培の仕方は?」「食品としてのコンニャクの栄養は? 調理法は?」

上記の疑問に対する答えを、以下のビデオで示すことにした。

①きょうの料理「健康食を検証する②こんにゃく」(1992年10月14日，NHK総合)

②きょうの料理「紅葉の里のこんにゃくづくし・滋賀県永源寺町」(1991年11月15日，NHK総合)

③トライ＆トライ「伝統の繊維たっぷり食 対決 コンニャク対寒天」(1990年11月13日，NHK総合)

④新日本探訪「母さんのコンニャク畑」(1992年11月29日，NHK総合)

## 第11回

イモに関するゼミの最終回（第4回）はサツマイモが題材である。

①さくもつものがたり「サツマイモ」,「こどもの光 1983年11月号」,家の光協会,72-77頁  
本回も,「さくもつものがたり『サツマイモ』」の文のみ配布,それを読んでイメージを描いてから,  
図版と文両方がのった原本のコピーを配布した。

クリよりうまいサツマイモ

「ブー」

ごろごろねているお父さんのおしりから,もうれつな音がとびだした。

「やっ,やったね。父ちゃん。」

ゴローくん,あわてて鼻をつまんだけれど,もうおそい。

「わあ,くさい,くさい。」

お母さんも,手のひらを顔の前でひらひらさせて,においをふりはらっている。

「気にしない,気にしない。これ,サツマイモを食べれば,当然起きる自然現象じゃ。サツマイモにふくまれるせんい質が腸の中で発酵して,うまれたガスがでたままでのこと。オナラがでるのは健康な証なんだからね。」

家の中に公害(へい害ともいう)をまきちらす元になるサツマイモを,ほんとうにきらいな人は,まずいないのじゃないかな。

東京の銀座や原宿などでは,今でも石焼きイモを売っている人がいる。とくに若い女の人は,もし,オナラがでる心配さえなければ,だれでも石焼きイモを食べたいと心の中で思っているにちがいないのだ。

焼きたての,ホコホコしたサツマイモは,なんたって,おいしいのだ。

むかし,江戸の町に「八里半」といって,石焼きイモを始めて,大はんじょうした人がいた。秋の味覚のクリ(九里)に近いおいしさというわけ。すると間もなく『十三里』といって石焼きイモを売る人が現れた。『クリ(九里)』より(四里)うまい『十三里』というわけだ。サツマイモって,おいしいね。

指名打者サツマイモくん

イモの仲間,大むかしから人類の主食の一つになっていた。日本でも,米やヒエ,アワなどの穀物とならんで,イモはたいせつな食料だった。もっともむかしは,イモといえばサトイモのことをさしていたんだけどね。

熱帯アメリカ(中南米)原産のサツマイモが日本にはいつてきたのは,どうやら江戸時代の初めのころらしい。

1615年に,イギリスのリチャード・コックスという人が,琉球(沖縄県)からイモ種をとりよせて,長崎県平戸の鷹の巣に植えたという記録があるんだよ。

では,琉球には,いつごろ,どこからはいつてきたかというと,1605年に野国総管という人が中国の福建省というところから,食料難にあえぐ琉球に伝えたんだ。

サツマイモには,いろいろの呼び名があるが,正式には甘藷(あまいイモ)という。甘藷とは中国名だ。そのほかに唐イモ,琉球イモともいう。唐イモというのは中国からきたイモ,琉球イモというのは琉球からきたイモという意味なんだね。

琉球から,長崎や薩摩(鹿児島県)にはいつてきたサツマイモは西日本一帯に広まり,やがて関東へと伝わった。関東でサツマイモというのは薩摩からきたイモという意味だ。サツマイモは,米などの穀物が不足したときは,いつもたいせつな主食となってきた。ジャガイモが主食のピンチヒッターとすれば,

サツマイモはタブチくん級の指名打者だったんだよ。

サツマイモの王様“紅赤”

江戸時代の天明、文化、天保という三大ききん（天候が悪く作物がみのらないで多くの人がうえ死にした）のときや、第二次世界大戦のとき、食りよう難をすくう指名打者となったサツマイモも、食りようが豊かな今日では、すっかりかげがうすくなってしまった。

ジャガイモがサラダなどの副食やポテトチップスなどのおやつに活路を見いだしたのにくらべて、すっかり力がおちてしまったらしい。

生産されるサツマイモの多くが、工業用のデンプンをつくる材料となるんだが、ほかのイモより高くつくのが、生産がへった大きな原因だ。

そんななかで、家庭用として今でも人気の高いのが『紅赤』という品種だ。

1896（明治29）年に、埼玉県木崎村の畳職人の妻・山田いちさんが発見した『紅赤』は、その後、千葉県、神奈川県、茨城県など関東地方に普及し、東京の市場では「金時イモ」と呼ばれて、消費者に喜ばれた。

美しい紅色の皮で、肉は黄色、ふっくらとして味がよいのが特ちょう。でも土質や気候に気むずかしいので、関東地方以外では収かく量がおちるのが欠点なんだ。

この『紅赤』とならんで人気の高いのは、高知県うまれの『高系十四号』。皮は見ばえがしないけれど、味は『紅赤』におとらない。都市の近くの観光農園では『高系十四号』を植えているところが多いんだって。

指名打者サツマイモくん、もうひとふんばり、ガンパッテよね!!

②トライ＆トライ「芋はイモでもジャガイモ＆サツマイモ」（1990年9月29日、NHK総合）

③テレビコラム「サツマイモ再発見」（1987年12月9日、NHK総合）

④食卓の王様「さつまいも」（1997年8月15日、NHK教育）

資料①で述べられている品種や味については、資料②～④がさらに興味深い話題を提供してくれたし、同じく資料①で述べられている江戸時代におけるサツマイモ栽培の話に関する興味をさらにかき立てる資料となったのはつぎの資料⑤である。

⑤その時歴史が動いた「日本を救ったサツマイモ～青木昆陽・飢饉救済に挑む」（2001年4月25日、NHK総合）

⑥高等学校教科書『食物 全』、中等学校教科書、昭和22年

第2次大戦敗戦直後の教科書には、サツマイモを食材にした料理が多数のっていることを示しながら、筆者の過ごした子ども時代の状況を伝えることを意図した。

第12回と第13回（省略）

### 3 初期ゼミの改善に向けて

幸い、2002年度にも初期ゼミを開講できることになったので、呼び込みの文句に当たる「初期ゼミの概要」をつぎのように変えてみた。最初にテーマを示しただけでも、内容はより明確になったと思うが、さらに当たりをやわらかくするような表現に変えてみた。

テーマ：「視聴覚資料の学習効果を考えよう」

適切な視聴覚資料の活用が学習効果を上げることは言うまでもないでしょう。みなさんは、勉強や読書をした時、図や音があつたらもっとわかりやすいのに、と思ったことはありませんか。

題材は、理系でも文系でも、また教科書の内容、時事問題等なんでもかまいません。視聴覚資料の活用によって、それがいかにわかりやすくなるかを実感することが、本ゼミの目的です。最初の数回は、私の方から例を示すつもりです。それから、みなさんが、「これに視聴覚資料が付いたらわかりやすくなるだろう」という題材を挙げて下さい。その題材をめぐって一緒に考えましょう。

どれだけの人数の学生が志望してくるかが楽しみである。(受入人数8名全部の受講志望があつた筆者注)

2001年度のゼミで学生の方から積極的な題材提供がされにくかったのは、課題に取り組まされることになったらどうしようかという不安があつたからかもしれない。そこで、つぎのような切り出し方をするのもいいかなと思う。話題をなにかから取ってもよいというところまで間口を広げずに、まず自分が理解しにくかった文章を教科書から取り出させて、そこに視聴覚資料を付加したらどう理解しやすくなるか、から入る方法である。

今、筆者の頭の中には、ゼミの進め方に関して工夫をこらしてみたいことがたくさん思い浮かぶ。しかし、残念なことに、3度目の改善の機会はない。すなわち、2003年3月をもって筆者は定年退官する。

## お わ り に

今回のゼミがけっして無駄ではなかったことを示す、受講生のC子の記述を最後に引用しておこう。

はじめは、何をしたらいいのかわからず、先生に頼ってばかりいて、結局最後まで、題は自分たちで出すけど、調べるのは先生だったので、もっと積極的に取り組めばよかったと反省している。けど、この初期ゼミを受けて、視聴覚を使うことで理解度が上がるということがわかり、教師になりたいと考えている自分には、すごく役に立ったと思う。また、こんなにやくはイモからできていることや小顔になるにはメイクやヘアスタイルでカバーするしかないこと(ゼミの第7回でやったが本論文では省略 筆者注)など、自分の知らなかったことも学べたので、本当によかった。

レポートのなかの記述である。C子は、レポートの題材を、「なぜ虹は見えるのかと質問された時、どのように答えたらよいか」とし、色付けをした図版の提示を考えた。

## 引 用 文 献

- 1) 例えば、文部省『小学校音楽指導資料 指導計画の作成と学習指導』, 1991年